

授業の概要（講師の問題関心）、進め方など

古賀 崇（附属図書館研究開発室）

◆ この特論で考えたいこと

* 図書館・文書館・博物館の連携・融合…どのレベルで？

- ・ 情報資源の管理・保存
- ・ 情報検索
- ・ 情報組織化の手法
- ・ 利用者サービス
- ・ 情報政策

* デジタル化をめぐる論点

- ・ 情報資源、情報検索、利用者サービスでの意識
- ・ 日本での「デジタル・アーカイブ」をめぐる論議・実践で抜け落ちていること
＝持続可能性 あるいは、アーカイブ構築「後」のマネジメント

* 京大の中では…

- ・ 図書館（図書館機構）、大学文書館、総合博物館、研究資源アーカイブ
それぞれの役割は？ スムーズな分担・連携ができていますか？
デジタル資料の扱いは？（機関リポジトリと、その他の取り組みとの関係）

◆ 当科目の当面の予定

- ・ 次の2～3回ほどは、講師による講義中心。ただし、次ページのような宿題（論文の感想等の口頭報告+α）を課す。
- ・ 演習の具体的な課題や進め方については、履修人数が確定してから検討する。
 - ただし基本方針としては、「単に教科書内の各章の内容を要約するのではなく、各章に示されたさまざまな実例について各自調査し発表する」。
- ・ 期末レポートについても追って連絡する。

◆ 取り扱う教科書・参考文献

* メインの教科書（必ず購入を！）

- ・ 日本図書館情報学会研究委員会編. 図書館・博物館・文書館の連携（図書館情報学のフロンティア No. 10. 勉誠出版, 2010.

* 参考文献

- ・ 水谷長志編著. MLA 連携の現状・課題・将来. 勉誠出版, 2010.
- ・ 石川徹也・根本彰・吉見俊哉編 つながる図書館・博物館・文書館：デジタル化時代の
知の基盤づくりへ. 東京大学出版会, 2011.
- ・ NPO 知的資源イニシアティブ編. デジタル文化資源の活用：地域の記憶とアーカイブ.
勉誠出版, 2011.
- ・ Yarrow, Alexandra et al. 公立図書館・文書館・博物館：協同と協力の動向. 垣口弥生
子・川崎良孝訳. 京都大学図書館情報学研究会, 2008. 68p.
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/~lib-sci/pdf/IFLA-Profrep108-Jp.pdf>

◆鑑賞ビデオ

- * NHK クローズアップ現代 2008年4月15日放送
「本物そっくりの文化財：デジタル複製の波紋」

◆ 次回（10/17）への宿題

配布する以下の論文を一読し、感想や疑問点を次回授業の最初に述べられるようにすること。
（レポートなどの提出は不要。口頭でよい）

- ・ 古賀崇. 「MLA 連携」の枠組みを探る：海外の文献を手がかりとして. 明治大学図書館
情報学研究会紀要. 2011, no. 2, p. 2-9.

特に、以下の点については、自分なりの考えをまとめておくこと。

- 「表 2」（p. 6-7）の区分について、疑問点はないか。
- “「MLA 連携」が、単に親機関（自治体や大学など）の財務や「業務効率化」の都合で M・L・A の組織統廃合につながりかねない、という懸念”（p. 8 の注 5）
に対して、どう思うか。